

財団法人 谷川熱技術振興基金
平成 21 年度 助成研究実施者募集要綱

1.助成対象研究

工業炉・燃焼装置などおよびこれに関連する装置・部品・材料などの熱技術および生産技術の基礎研究ならびにその実用化研究

2.応募者の範囲

大学・団体・各種研究所など

3.助成金額

平成 21 年度は助成件数約 10 件程度、助成金総額 1,600 万円を予定しております。

4.助成対象研究期間

助成の対象とする研究期間は平成 21 年 10 月より 1 年以内とします。
(研究期間が上記の期間を超える場合は、研究助成金交付申請書の 4.に記載して下さい。)

5.応募方法

- (1) 提出書類 研究助成金交付申請書 1 部 (様式 I による) を提出願います。
1.研究のテーマ、9.研究の目的については E-mail でも送信願います。
- (2) 提出期限 **平成 21 年 7 月 17 日(金) 必着 (締切厳守)**
- (3) 提出先および問合せ先 〒550-0001 大阪市西区土佐堀 1-6-20
(財)谷川熱技術振興基金 事務局
TEL/FAX : 06-6444-2120
E-mail : tanikawafund-0001@yahoo.co.jp

6.選考方法

- (1) 研究助成選考委員会で選考いたします。
〔選考委員 50 音順 敬称略〕

委員長	佐藤眞住	(社)資源協会 理事 (株)神戸製鋼所 顧問
委員	岡村清人	大阪府立大学 名誉教授 (株)超高温材料研究所 技術顧問
〃	岡本 平	大阪大学 名誉教授
〃	香月正司	大阪大学 名誉教授
〃	架谷昌信	愛知工業大学 工学部 教授 名古屋大学 名誉教授
〃	樋下田和也	(社)日本機械学会 会員
〃	平野敏右	千葉科学大学 学長 東京大学 名誉教授
- (2) 選考の過程で、研究計画の詳細について説明をお願いする場合があります。
- (3) 選考の結果は、9 月中旬に申請者宛ご連絡するとともに、関係新聞、協会誌などに発表いたします。

7.助成金の交付

- (1) 交付の時期および方法は、交付決定時に申請者と協議して定めます。
- (2) 助成金を交付する際には、後記 10.に記載の請書を提出していただきます。
- (3) 交付した助成金については、後記 10.(7)に該当する場合を除き返還の必要はありません。

8.研究成果の帰属

助成研究の実施過程において取得される工業所有権は助成研究者側に帰属します。

なお、研究成果の普及活用を図るという趣旨から、工業所有権などの実施許諾については協議に応じていただくようお願いします。

9.研究の内容および成果の公表

研究終了後に提出していただく報告書に基づき、当財団の機関誌に発表いたしますので、あらかじめご了承ください。

10.請書の内容

研究助成金の交付の際に、申請者または研究実施者から提出していただく請書の内容は、次のとおりです。

- (1) 研究助成は、「研究助成金交付申請書」記載内容に基づき実施する。
- (2) 助成研究の実施過程において、上記内容を変更する必要がある場合は、速やかに当財団に報告し協議する。
- (3) 助成研究が終了したときは、50日以内に当財団に研究終了報告書を提出する。
- (4) 助成研究の内容および成果について、第一次研究概要報告書を平成 23 年 3 月末迄に提出する。また報告書内容を当財団の機関誌に掲載することを承諾する。
- (5) 助成研究の成果としての工業所有権については、研究成果の普及活用を図るという観点から、実施許諾について当財団との協議に応ずる。
- (6) 助成研究に関して論文などを発表する場合は、当財団の助成をうけた旨明記する。
- (7) 「研究助成金交付申請書」に記載した研究を実施しなかった場合は、助成金を返還する。
- (8) 帳簿を備え、助成研究に係る経理を他の経理と区別し、当財団から照会があった場合はこれに応ずる。

11.その他

過年度に助成対象とならなかった研究について、その進展に伴い再度ご応募いただいても結構です。

また、過去に助成を受けられた方で、その後相当年数を経過した場合には再度ご応募いただいても結構です。

様式 I

財団法人 谷川熱技術振興基金
研究助成金交付申請書

平成 21 年 月 日

財団法人 谷川熱技術振興基金 御中

申請者 所在地 〒 _____

団体名 _____
代表者職氏名 _____ 印

※代表者は研究責任者が所属する組織の長とする。
(機関の代表者、学部長、研究所長等)

下記のとおり申請いたしますので、研究助成金の交付をお願いいたします。

1. 研究のテーマ(20字以内にまとめて下さい。)

2. 研究実施者 所属(学部 学科)、職名、氏名、年令を記入して下さい。(研究責任者にはフリガナをふして下さい。)

研究部署 _____
フリガナ _____
研究責任者 _____ (才)
研究員 _____ (才)
" _____ (才)
" _____ (才)
" _____ (才)

3. 研究実施場所 _____

4. 研究期間 自 平成 年 月 至 平成 年 月

(うち助成対象研究期間 自 平成 21 年 10 月 至 平成 22 年 月)

5. 所要資金総額(明細を 7. に記載) _____ 千円

(うち助成金申請額 _____ 千円)

6. 連絡先

所属 _____
職名・氏名 _____
電話番号 () - _____ Fax () - _____
e-mail _____

(注) 印刷に際し、用紙サイズは A4 とする。提出部数は 1 部。

財団整理No. _____ - 1 / _____

7. 所要資金総額（5.の明細）

	品名	数量	所要資金総額 (千円)	内助成金申請額 (千円)	備考
(1) 機 備 械 品 装 費 置 費					
		小計			
(2) 材 消 料 耗 費 品 費					
		小計			
(3) そ の 他					
		小計			
	合計				

(注)1. 「その他」は、外注労務費、国内旅費、通信費、印刷費など。

2. 海外出張旅費は助成の対象外です。

8. 他からの補助金（過去3年間）

本研究または関連研究に対して、他からの補助金・助成金などを受けている場合、または申請している場合は、その概要を記載して下さい。

申請年月	決定年月	申請先	研究テーマ	決定額 or(申請額) (千円)

9. 研究の目的（150字程度をメドに簡潔に記載して下さい。）

10. 研究の概要（250字程度をメドに概要を解りやすく記載して下さい。）

11. 研究の内容（内容の詳細は別紙（A4サイズ1～4枚程度にまとめて下さい。）に記載し、必要があればフローシート、略図などを添付して下さい。）

添付書類 (1) _____
(2) _____
(3) _____

12. 研究実施者の**主要**研究テーマ、および論文掲載誌名、掲載年月日（過去3年間）

13. 国内外における関連研究の概要

14. その他の参考事項

以 上

(ご参考) 敬称略

平成19年度(第27回) 研究助成金交付先

研究責任者	研究テーマ
北海道大学 工学研究科 教授 鶴飼重治	次世代型高強度 Ni 基 ODS 超合金の開発
東北大学 工学研究科 准教授 青木秀之	超高压パルス噴霧燃焼時の環境汚染物質低減
筑波大学 システム情報工学研究科 教授 河井昌道	高压水素容器用炭素繊維強化複合材料(CFRP)の耐久性支配因子の抽出とモデル化
慶應義塾大学 理工学部 専任講師 横森 剛	高安定性を有する RQL 燃焼器の開発
大阪大学 基礎工学研究科 教授 尾方成信	分子動力学法による浸炭表面反応の解析
大阪府立大学 工学研究科 教授 塚田隆夫	単結晶成長炉内の輸送現象と結晶欠陥との相関
岡山大学 自然科学研究科 准教授 田口秀樹	結合距離を制御した排ガス浄化触媒の開発
九州大学 工学研究院 准教授 山本 剛	CFD による微粉炭燃焼炉制御基盤技術の開発
大阪府立産業技術総合研究所 主任研究員 井本泰造	木質系廃材のガス化メタノール製造法の開発
福岡工業技術センター 主任技師 周善寺清隆	非酸化物粒子合成のための還元ガス発生装置の開発
合計	10件 1,480万円

平成20年度(第28回) 研究助成金交付先

研究責任者	研究テーマ
北海道大学 工学研究科 准教授 中村祐二	変則十字火炎の創製とその基礎特性の把握
東北大学 工学研究科 助教 松下洋介	燃焼場における温度測定技術の高度化
東北大学 多元物質科学研究所 准教授 篠田弘造	複層磁性微粒子合成のための熱処理技術開発
筑波大学 システム情報工学研究科 教授 阿部 豊	超高耐圧極微細管積層型熱交換器の開発
東京工業大学 理工学研究科 准教授 谷口 泉	流動層式エマルジョン滴下燃焼法による LiFePO ₄ /C 複合材料の合成
横浜国立大学 工学研究院 准教授 森 昌司	含水多孔質を用いた瞬間過熱水蒸気生成装置の開発
名古屋大学 工学研究科 助教 窪田光宏	マイクロ波加熱によるメソ孔性活性炭の開発
京都大学 工学研究科 助教 岡本範彦	界面フォノンミスマッチによる熱電特性制御
京都大学 工学研究科 講師 河原全作	沸騰研究のための極細熱電対の開発
大阪大学 接合科学研究所 教授 近藤勝義	非食部バイオマスの完全再資源化燃焼技術
大阪府立大学 工学研究科 教授 須賀一彦	革新的超小型排ガス触媒装置の開発研究
合計	11件 1,510万円